

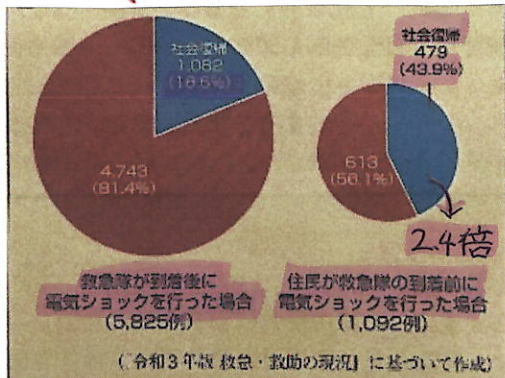


救命新聞

豊橋市立中野小学校5年

佐藤 加莉奈

倒れている人を見つけたら？



電気ショックを救急隊が行った場合と住民が行った場合の1か月後の社会復帰率

救命しよ置の流れとポイント

- ① 倒れた人を発見 ← 大声で大人をよび助けてもらう。
安全な場所かの確にんもわすれないこと。
- ② 反応を確にん ← 「大じょうぶですか」と3回声をかける。
反応がなければ「119番通報」と「AEDの手配」
電話のスピーカー機能を活用し通信指令員の指示をもらう。
- ③ こきゅうを確にん ← 10秒以内に胸とおなかの動きを確にんする。
分かりにくい時も④に進む。
- ④ 胸骨圧迫 ← 胸と胸の間を、強く(約5cmの深さ)
早く(1分間に100~120回のテンポ)
絶え間なく(連続30回以上)圧迫する。
- ⑤ AEDの装着 ← 音声にしたがい行なう。AEDは、
心ぞうのふるえを止める機かい。
- ※ 救急隊員と交代するまで④と⑤をくり返す。
- 



編集後記

救急隊も、倒れた人のスタッフも
 すことなく、元気な人が命を落と
 幸せになつてほしいという思い
 で仕事をしています。



訓練していただきます。
 毎日色んな事を想定して、
 気にはいるの。意識があれば、元
 は、息を止めて、胸骨圧迫をしてほ
 す。息を止めて、行なう。ほ
 えたいことはありますか？
 Q 命を救うために救急隊が一番伝

と続練とA圧どQ
でける習といき迫当
す。るもいうんがし本
た。た大事うち出来に
めには、です。持うま倒
は、。ちうはすんれて
手。がします。か？いる
を。大事です。う人
止。で。せうが
め血。す。うい
ない液。ずいた
いを送。にた時
こり。と、い胸骨

力にインタビュー

